

令和3年度  
津山洋学資料館  
夏季企画展

あれも  
これも薬



令和3年

会 期 : 7月3日(土) ~ 9月20日(月・祝)  
 開館時間 : 9時 ~ 17時 (入館は16時30分まで)  
 休 館 日 : 月曜日 (祝日の場合は翌日)、祝日の翌日  
 会 場 : 津山洋学資料館 企画展示室

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
 TEL 0868-23-3324 FAX 0868-23-9864



津山洋学資料館  
 TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

※ 新型コロナウイルスへの対応について

- マスクの着用や咳エチケットの遵守、入館時の手指の消毒と体温計測にご協力をお願いします。
  - 展示室内では、密にならないよう間隔をあけてご観覧ください。状況によっては入場制限等をする場合もあります。
  - 感染拡大防止のため、会期や開館時間を変更する場合もあります。ご来館前にホームページ等でご確認ください。
- 感染拡大を防ぎ、安心してご観覧いただけるよう、皆さまのご理解とご協力をお願いします。



# あれも薬 これも薬



**馬も薬？**

人は太古の昔から、自然界にある植物や動物、鉱物などを薬として使ってきました。どんな物がどの病に効くのか、試しながら経験的に発見してきたのです。

江戸時代の薬は自然由来の生薬しょうやくであり、刻んで乾燥させるなどの簡単な加工を施して、薬効が高くなるように調合されました。薬の原材料となる生薬の供給は、18世紀初頭まで中国からの輸入に頼っていましたが、薬の需要が増えるなかで生薬の国産化が求められるようになり、薬の原料を研究するほんどうがく本草学が盛んになります。

また、西洋医学を学ぶ医師が増えてくると、珍しい西洋の薬への関心も高まりました。当時は、いわゆる「鎖国」によって、中国人とオランダ人のみが、長崎で交易を許された時代でしたが、医師たちは治療に役立つものを見つけ出そうと、両国から輸入される薬を研究したのでした。

本展では、江戸時代から明治時代にかけて、人々が薬に対してどのような関心を持ち、どのように研究したのかをご紹介します。



**象も薬？**



**牛乳も薬？**  
ぎゅうにゅうえんひきんだ  
**牛乳圓引札**  
長崎 回春堂 製  
明治時代



**イッカクも薬？**  
いっかくさんこう  
『一角纂考』  
木村遜齋 著  
1795(寛政7)年刊



**ミイラも薬？**  
こうもうざつわ  
『紅毛雑話』  
森島中良 著  
1787(天明7)年刊



**人魚も薬？**  
ろくもつしんし  
『六物新志』  
大槻玄沢 訳考、杉田伯元 校  
1786(天明6)年序



**石鯨も薬？**  
えんせい いほうめいぶつこう  
『遠西医方名物考』  
宇田川玄真 訳述、宇田川榕菴 校  
1822~25(文政5~8)年刊

- 開館時間／9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日  
(会期中の休館日：7/5・12・19・26・27, 8/2・10・11・16・23・30, 9/6・13)  
※感染拡大防止のため、会期や開館時間を変更する場合があります。  
ご来館前に下記ホームページなどでご確認ください。
- 入館料／一般 300円、65歳以上・高校・大学生 200円  
(常設展示と共通・30名以上の団体は2割引)

**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5 TEL:0868-23-3324 FAX:0868-23-9864  
URL: <http://www.tsuyama-yougaku.jp> e-mail: [yougaku@city.tsuyama.lg.jp](mailto:yougaku@city.tsuyama.lg.jp)



- 交通のご案内・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分  
・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分